

平成 23 年度

神奈川県新しい公共支援事業構成事業「寄附促進に向けた NPO 認知度向上事業（かながわ
寄付をすすめる委員会企画）」委託業務



ペニーハーベスト・プログラムを参考にした サービスラーニング 指導要領



平成 24 年 3 月

公益社団法人 日本フィランソロピー協会

本書の位置づけ

本書『ペニーハーベスト・プログラムを参考にしたサービスラーニング 指導要領』は、平成 23 年度神奈川県新しい公共事業構成事業「寄附促進に向けた NPO 認知向上事業（かながわ寄付をすすめる委員会企画）」委託業務として遂行した「次世代に寄付への理解を広げる学習プログラムの開発・普及」事業の成果である。

「ペニーハーベスト・プログラム」は、米国の市民団体「Common Cents」が過去 20 年にわたって開発・普及してきたサービスラーニングプログラムであり、4 歳から 14 歳の子どもを対象とし、ペニー（小銭）を集める募金活動を行ない、地域の課題調査を通してその寄付先を主体的に考え、実際に寄付を行ったり、ボランティア活動を行ったりする学校での 1 年間のカリキュラムとなっている。2009 年現在、ニューヨーク州の 926 校が参加し、これまでの募金額は延べ 770 万ドル（6 億 4 千万円）に上る。

このプログラムを通して子ども達は、社会における自己有用感を高め、社会的存在としての自覚と責任、そしてコミュニティへの愛情と大人への信頼を醸成していく。

本書は、Common Cents が発行する「ペニーハーベスト・プログラム」手引書を参考にし、日本において、募金・寄付を核にしたサービスラーニングを日本で広めるために、学校のカリキュラムへの導入、生徒会や部活動などの課外活動、地域で子どもと関わる団体（PTA、おやじの会、学童保育、市民団体など）の活動として実践するための参考図書として作成した。

基本的には、Common Cents の手引書『Penny Harvest Curriculum Guide for Educators』（2007, Common Cents, New York）を元に、アメリカで行なわれている 1 年間のカリキュラムを紹介している。ただし、日米の学校におけるカリキュラムや文化の違いなどから、現状において、このまま学校などで採用することは困難と判断し、日本において募金・寄付を核とするサービスラーニングを行なう際に予測される課題を考慮し、修正点、変更点を注意書きの形で記載している。

日本フィランソロピー協会では、本書の編集を出発点として、平成 24 年度に、神奈川県内における説明会・研究会・実証実験を実施し、多くの皆様のご意見などを反映しながら、本事業を拡げていくためにより有効なプログラムを開発していく予定である。ぜひ多くの学校関係者、地域で子どもの教育に関わる方々に、この事業に参加して頂くことを願っている。

平成 24 年 3 月
公益社団法人日本フィランソロピー協会

目次

■本書の位置づけ1
----------	--------

I. サービスラーニングを日本で進めるにあたって

1. 日本の現状8
2. 学校のカリキュラムとしての展開10
3. 課外活動としての展開12
4. これまでの取り組み事例13
(1) キックオフセミナー	
(2) 東京都杉並区立和泉中学校の取組	

II. ペニーハーベスト・プログラムとは

1. はじめに18
2. ペニーハーベスト・プログラムの流れ19
(1) ペニーハーベスト・プログラムの3段階	
(2) ペニーハーベストの担い手	
(3) プログラムの流れ	

III. プログラムステップ1:募金を集める

1. 募金活動の概要と意義24
2. プログラムの準備をしましょう25
(1) はじめるにあたって覚えておくこと	
(2) 学校全体で取り組む	
(3) コーチとしてのチェック項目	
3. リーダーの選出28

(1) リーダーとしての役割	
(2) コーチがリーダーに対して行なうこと	
(3) リーダーがすべきこと	
4. コミュニティを学ぶ32
(1) 「ケアリング・ホイール」をつくる	
(2) わたしたちの住むコミュニティについて考える	
5. キックオフ集会36
(1) キックオフ集会の意義と目的	
(2) キックオフ集会を企画しましょう	
6. レッスン「あなたの募金が必要です」39
(1) 「あなたの募金が必要です」の手紙を書こう	
(2) 募金活動のロールプレイをしよう	
(3) ペニーハーベストを地域で広げるためにできること	
7. 募金活動43
(1) はじめるにあたっての確認事項	
(2) 家族の役割	
8. 学校全体で取り組むために44
(1) ペニーハーベストを成功させるために	
(2) ペニー・オリムピックスを開催する	
(3) 掲示板・HP を活用する	
(4) 募金箱を人通りの多い場所に置く	
(5) ポスターをつくる	
(6) 途中経過の発表を行なう	
9. 集まったコインから学ぶ48
(1) 集まった募金額を把握する	
(2) ペニーハーベスト・ジャーナルを書こう	
(3) 硬貨を造幣年ごとに分類してみよう	
(4) 造幣年足し算ゲーム	
(5) 確率を学ぶ	
(6) 硬貨の重さを量ってみよう	
10. 募金活動の結果発表と次のステップに向けて55
(1) 結果発表会の開催	
(2) 他のイベントの開催	

(3) フィランソロピー会議に向けて

IV. プログラムステップ2:フィランソロピー会議(寄付活動)

1. フィランソロピー会議とは	60
2. ペニーハーベスト・寄付ガイドライン	62
(1) 寄付ガイドライン(コーチ用)	
(2) 寄付先の種類	
(3) ペニーハーベスト・寄付ガイドライン(生徒向け)	
3. フィランソロピー会議の運営	65
4. コミュニティの課題を学ぶ	66
(1) フィランソロピー会議の役割を学ぶ	
(2) フィランソロピー(社会貢献)の大切さを学ぶ	
(3) コミュニティの意義を学ぶ	
(4) 地域のコミュニティについて学ぶ①:インタビュー	
(5) 地域のコミュニティについて学ぶ②:ニーズリストをつくる	
5. 寄付先団体・金額を決める	74
(1) 寄付基準をつくる	
(2) 団体の調査を行なう	
(3) 寄付金お割り当てを決定する	

V. プログラムステップ3:ボランティア活動

1. ボランティア活動の意義	78
2. ボランティア活動に向けた準備	80
3. 学びをボランティア活動につなげる(KWLD学習)	81
4. 記録をつける	83
5. 自分たちの能力を理解する	84
(1) 生徒たちが持っている「資源」を考える	
(2) 能力をのばす	

(3) 自分たちの能力と地域のニーズを合わせる

6. ボランティア活動の計画と実行86
(1) ボランティア計画の基本方針を立てる (KWLD 表の完成)	
(2) ボランティア活動の実行	

VI. プログラムの終了と次年度の計画

1. プログラムの終了に向けて90
2. 活動の反省と翌年の計画92
3. 広報活動94
(1) 生徒たちの活動を広く知らせるために	
(2) プレスリリースを書くためのヒント	
4. ペニーハーベストの記事を書く96
5. 表彰式・閉会パーティーを開催する98

1. サービスラーニングを日本で進めるにあたって

1 日本の現状

サービスラーニングとは、青少年のための、地域ニーズに応える社会貢献活動と知的学習を結び付ける取り組みです。あくまでも教育機関の教授方法である点で、従来のボランティア活動とは異なります。また、サービスを提供する一方的な社会奉仕活動とは、活動自体から自ら学ぶ双方向的な活動である点でも異なっています。

この両面を持つ活動は、米国から遅れること十年、1990年代後半に、日本の大学等の教授法に導入され、2000年以降に一般に普及し始めました。2002年に中央教育審議会が大臣答申した「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」では、「奉仕活動・体験活動」は、人、社会、自然とかかわる直接的な体験を通じて、青少年の望ましい人格形成に寄与する。大人にとっても、家族や周囲の人々、地域や社会のために何かをすることで喜びを感じるという人間としてごく自然な暖かい感情を湧き起こし、個人が生涯にわたって、「より良く生き、より良い社会を作る」ための鍵となる。国民一人一人が「奉仕活動・体験活動」を日常生活の中で身近なものにとらえ、相互に支え合う意識を共有し活動を重ねていくことができるような環境を、皆で協力して作り上げていくことが不可欠であると考えられる。」と述べています。

同答申では、また「子どもの地域社会との関わりについては、小学校、中学校、高等学校と学年があがるにつれ少なくなる傾向にあり、ボランティア活動についても、小学校、中学校、高等学校と進むにつれ少なくなる傾向にある。学校における体験活動についても、小学校、中学校、高等学校と進むにつれ少なくなる傾向にある。（「地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」（平成13年9月・10月調査）」（子どもの体験活動研究会）「学校における体験活動の実施状況」（平成12年度）（文部科学省調べ）」というように現状が確認されています。

これらの動向の中、最近では小中高校の「総合的な学習の時間」にサービスラーニングを行う学校が増えつつあります。

■大学、短期大学におけるサービスラーニングの導入状況

①国際基督教大学（東京都）

サービスラーニングセンターを持つ。国際サービスラーニング、コミュニティーサービスラーニングなどを実施。

②立命館大学（京都府）

ボランティアセンターが支援。地域活性化ボランティア等。

③恵泉女学園大学（東京都）

体験学習としての取組。NPO団体、社会福祉協議会等で活動体験。

④女子美術大学（神奈川県）

アートを通じた医療、福祉連携。

⑤龍谷大学（京都府）

経済学部が導入。地域経済社会を深耕するフィールドワーク。

⑥愛知淑徳大学（愛知県）

コミュニティ・コラボレーション・センターを有す。ノートテイク、子育て、青少年育成支援、在住外国人、国際協力、医療福祉分野などが活動領域。

⑦桐蔭横浜大学（神奈川県）

スポーツ健康政策部が導入。社会貢献論の実習カリキュラムの位置づけ。

⑧関西国際大学（兵庫県）

大学と住民、行政等の協働による地域活性化がテーマ。シニア活動支援等。

⑨昭和女子大学（東京都）

学生参加の地域子育てプログラムの展開。

⑩西武文理大学（埼玉県）

サービス経営学部が導入。

⑪早稲田大学（東京都）

行動する国際人の育成を目指す、平山郁夫記念ボランティアセンターの活動。

⑫愛媛大学（愛媛県）

お遍路さんへの「お接待」を基本としたキャンパスボランティア。

⑬滋賀県立大学（滋賀県）

エコ、防災対策、まちづくりを地元学入門として、スチューデントファーム「近江楽座」の支援で活動。

■小中高校におけるサービスラーニングの導入状況

網羅的な調査を探し出すこと。社会学習への取組はリストアップできるが、サービスラーニングとして掲載できる情報が少ない。以下はウェブサーチからの編集である。

①神奈川県立逗子高等学校

逗子高校サービスラーニングセンターを持つ。県立障害者施設内喫茶店の開設と運営、公開自然環境保護講座の開講、こどものための海洋理解クルーザー体験、湘南工科大学と連携してのハイキングコースマップの作成、高校生公益活動リーダー塾の主催等。

②徳島県立穴吹高等学校

数学教育の一環。徳島県の剣山よりどこまで可視できるかを計算し、結果を観光PRのHPに載せる取組。

2 学校のカリキュラムとしての展開

公益社団法人日本フィランソロピー協会では、募金・寄付を核とするサービスラーニングを学校のカリキュラム(主に「総合的な学習の時間」として取り組んで頂くことを目的に、平成23年はじめより、国内の様々な小中学校を訪ね、その可能性を話し合ってきました。

しかし学校現場では、「金融教育」「消費者教育」として、暮らしの中の経済観念を育てる授業が取り入れられている一方で、実際の「お金」を扱うような、募金・寄付活動を授業で取り組むことについての理解は得にくい状況にあります。

今回紹介している「ペニーハーベスト・プログラム」は、一年間の学校カリキュラムであり、クラス単位だけでなく、学校全体で取り組むことを Common Cents が運営する「ペニーハーベスト事務局」に登録し、学校全体をリードするリーダーを生徒の中から選抜することから始まります。

日米の学校におけるカリキュラムや文化の違いなどから、現状において、このまま日本の学校などで採用することは困難と判断し、日本において募金・寄付を核とするサービスラーニングを行なう際に予測される課題を考慮し、今回、『Penny Harvest Curriculum Guide』を翻訳・編集するにあたっては、プロセスを整理し、一つのクラスで取り組む際に参考となる解説を加えました。

また、「ペニーハーベスト・プログラム」においては、目標の量(25袋)まで硬貨を集めることが最初の課題とされており、この課題をクリアして初めて、フィランソロピー会議(コミュニティの課題をみつける学習及び寄付先の検討・決定)に進むことができるとされています。

しかしながら日本の学校においてサービスラーニングを進める際には、まずコミュニティの課題・ニーズを学び、それを解決するためにはお金やボランティアが必要かどうかを子どもたちに考え、議論、判断させ、募金活動、もしくはフリーマーケットなどを開催するボランティア活動でお金を集める手段に取りかかる、という流れで進めることが妥当だと言われています。

■総合的な学習の時間の活用

募金・寄付を核とするサービスラーニングを取り入れるための教科では、「総合的な学習の時間」などが考えられます。小学校、中学校共に年間70時間が決められており、教師・生徒の工夫次第で、様々な課題に深く取り組むことができます。

総合的な学習の時間の目標は、「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すると

ともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、想像的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」(文部科学省小学校指導要領)であり、まさにサービスラーニングが目的としているところと合致します。

現在、全国的な「学力低下」という評価を受け、学校のカリキュラムが「学力」重視へと流れ、2000年度より段階的に導入された「総合的な学習の時間」は、小学校3・4年生で当初105時間とされていたものの、2009年度より70時間程度に減らされています。しかしながら、長年「総合的な学習の時間」を研究している現場の教師からは、この学習を適切に活用することで、生徒たちの暮らしに対する積極性・自己決定力を高めることができ、他の学習教科への意欲も増す、という意見を得ています。実際に地域社会の人々と触れ合うことで、自分の将来像を描き、それに向けて今こそ、学習をするという意欲がわいてくるのではないのでしょうか。

しかし一方で、この時間を上手く活用できず、教育委員会などから提供されたマニュアルをなぞるだけの「授業」を行なっている学校も少なくないという感想も側聞しています。確かに、子ども達の意味に任せ、話し合いも取り組みも紆余曲折する子ども達をガイドしていくのは容易なことではありません。だからこそ、プロセスで学ぶことが多く、達成した時の喜びは大きくなります。教師にも忍耐と柔軟性、そして学校内に留まらないコミュニケーション力が試されます。生徒たちが考え付くことには、これまで誰も取り組んだことのないこともあるかも知れませんが、だからこそ、教師は子ども達の意見に耳を傾け、同僚の生徒や地域の人々と議論を重ねながら、子ども達と他にはないカリキュラムをつかっていくことができるのではないのでしょうか。

より有効的に活用していきたいという思いを持っておられる先生方に、ぜひ本書を参考に頂き、子どもたちが地域社会と積極的に関わり、自分自身の能力と社会における自己有用感を高めるための一助として頂けたら幸いです。

3 課外活動としての展開

日本フィランソロピー協会は、将来の民主的な社会への布石として、次世代を担う子どもたちにこそ、寄付文化を定着させたいとの想いをもち、学校のカリキュラムで「募金・寄付を核とするサービスラーニング」を活用頂きたいと願っております。

■学校内の課外活動

これには、生徒会や、委員会活動が含まれます。学校によっては、伝統的に委員会活動や部活動として、募金活動・ボランティア活動を行なっているところもありますので、その寄付先・ボランティア活動先の選定の際に、ペニーハーベスト・プログラムを参考にして頂くことができます。

■コミュニティ・スクール、学校支援地域本部

コミュニティ・スクール、学校支援地域本部を設置している学校では、既に学校と地域の人々との関係が密であり、学校は地域に開かれた存在であり、子ども達が地域で活動する環境が整っています。こちらに関わる人々を中心として、学校・地域社会両方に働きかけながら、より良いサービスラーニングを進めることができます。

■PTA、おやじの会、子ども会、学童保育、婦人会

小中学生の保護者の会を中心に、小規模で活動を進めることができます。この場合、放課後や週末での集まりが中心となります。また、学童保育の活動の一つとして導入することで、長期間のプログラムに対応することができます。

■教育関連の市民団体

地域には、子ども達の健全育成を支援する市民団体が数多くある。放課後の居場所を提供していたり、定期的に講座やイベントを開催し、子ども達を支援する団体と協力し、短期・長期のサービスラーニングを考えていくことができます。

4 これまでの取り組み事例

これまでに、日本フィランソロピー協会が行なってきた、サービスラーニング関連事業は以下の通りです。

■キックオフセミナー

米国より、テディ・グロス氏（市民団体 Common Cents 創設者、エグゼクティブディレクター）を日本に招き、奈良と東京でそれぞれキックオフセミナーを開催しました。

①「青少年健全育成啓発・推進セミナー ペニーハーベスト In JAPAN」

開催日：2011年5月28日

会場：JICA 研究所 国際会議場（東京都新宿区）

内容：◆基調講演「日本の寄付の現状、子どもの教育における意義と課題」

山内 直人氏（大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授）

◆「ペニーハーベスト・プログラム」の紹介

テディ・グロス氏（Common Cents 創設者、エグゼクティブディレクター）

◆「ペニーハーベスト・プログラム」の進め方

高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

◆トーク&質疑応答

テディ・グロス氏（Common Cents 創設者・

エグゼクティブディレクター）

毛受 敏浩氏（公益財団法人日本国際交流センター

チーフ・プログラムオフィサー）

進行：高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会・公益財団法人日本国際交流センター



基調講演では、山内氏に、「日本に寄付文化はないのか」、「寄付やボランティアを行う人の傾向」、「子ども期の寄付やボランティア活動の意義」など、日本における寄付の概観や状況を、具体的なデータを示しながらお話し頂きました。

テディ・グロス氏からは、「ペニーハーベスト」の概要について紹介頂き、特にその効果として、「大人は子どもには力が無いと思っている。

でも、導き方によって子どもは想像以上の力を発揮し、コミュニティを変革していく」ということが語られ、子どもの可能性を引き出す大人の役割が再認識されました。

また、募金活動等の取り組みを通じて、子どもたちが地域の一員としての自覚と責任感を持つようになるだけでなく、地域の大人も子どもたちと接することで変化していくということが話されました。

プログラム紹介後のトーク&質疑応答では、会場の高校生から「寄付やボランティア活動は受身ではだめ。お膳立てされたものではなく、自分から行動を起こして仲間を募りながら進めることで、いろいろな壁を乗り越えることができる」と自らの募金活動を紹介するなど、活発な意見交換の場となりました。



■東京都杉並区立和泉中学校の取組

東日本大震災の被災地の中学生に文房具を提供する活動のために、同中学校の有志が校長先生の支援の下、課外活動としてサービスマーケティングに取り組みました。

①日時：2011年8月～9月

②活動エリア：中学校が所属するコミュニティ（永福町商店街など）

③活動者：和泉中学校の有志の生徒9名

④プログラム概要

8/30	NPO 法人 ACTION 代表 横田宗氏講演	フィリピンのストリートチルドレン支援等
2011/8/31	日本サムスン(株)訪問	企業の社会貢献活動の実例学習
9/7	ディスカッション	募金活動の目的と寄付金の使途の協議
9/10	募金活動のお願い	募金への協力の依頼をにし、永福町商店街を回った。
9/13	ディスカッション	募金の寄付先の決定
9/22	募金活動	永福町駅前と同商店街での募金活動
10/18	寄付金贈呈式	東日本大震災の被災地の中学生に文房具を寄贈するために、NPO 法人アスイクに寄付金を贈呈した。



平成 24 年 3 月

【発行】

公益社団法人日本フィランソロピー協会

〒100-0004

東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL : 03-5205-7580

FAX : 03-5205-7585

URL : <http://www.philanthropy.or.jp>

